

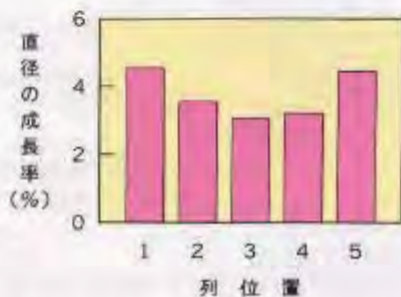
高性能林業機械を活用した新しい間伐方法

2伐列状間伐の有効性



2伐列状間伐は、高性能林業機械を用いて間伐を行うための新しい方法です。機械が大きいので、1列の伐採幅では狭いのです。30年生のトドマツ人工林でフェラーパンチャを用いて2伐列状間伐を行い、林床への影響や残存木の成長を調べました。

間伐して3年が過ぎた林では、草本などが林床を覆い、土壌の流出は見られませんでした。また、残った木の直径成長は、無間伐のものに比べて30から50%も大きくなりました。林分成長量は、間伐した年では無間伐林分の83%でしたが、間伐して2年が過ぎた林では97%にまで回復していました。このように、2伐列状間伐は通常の間伐と同様に、残った木の直径成長を促進し、一定の林分成長量を確保できることが分かりました。問題点として、間伐列から離れた列(例えば、2伐5残ではまん中の第3列目)の直径成長が無間伐林分のものと同程度に変わらないことが挙げられます。これについては、定性間伐の同時実行、次回間伐での第3、4列目の伐採(2伐6残の場合)、第3列目が生じない2伐4残の間伐などが有効な解決策となります。



間伐列に面した第1、5列目の成長率が高く、まん中の第3列目の成長率が低い(間伐して2年が過ぎた林)